

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健福祉援助実習		選択	8	4	夏季 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
齊藤 晋治 他	B308	s-saito	水曜・木曜 12:10～13:00		
授業の目的・概要	<p><目的> 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。</p> <p><概要> 実習は医療機関と施設・機関の2か所で実施する。医療機関で98時間程度、施設・機関での実習を112時間程度とし、合計で210時間以上の実施となる。</p>				
学習上の助言	精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握できるようになる。				
教科書	新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習 中央法規出版				
参考書	「学外実習の手引き」(健康科学大学福祉心理学科編集)				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	精神科医療機関・関連施設・事業所の機能、地域内での役割を理解する。			精(1)(2)	
②	実習施設での精神保健福祉士の役割を理解する。			精(1)(2)	
③	精神障害者の支援方法について理解する。			精(1)(2)	
④	自己覚知を深める。			精(1)(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働大臣が別に定める実習施設及び事業所で行なう。 ・精神保健福祉援助実習は、28日間かつ210時間以上の実習をしなければならない。そのうち12日間(90時間)以上は医療機関での実習とする。 ・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・実習前の担当教員による個別面接及び実習中の巡回指導を実施する。 					
事前事後学習内容・必要時間					
実習記録(実習日誌)を毎日作成し、翌朝実習指導者に提出する。					
必要時間 (単位:時間) : 56					

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	70	30	0	0	
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	15	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	15	0	0	15
	コミュニケーション力	0	20	0	0	0	20
	取組みの姿勢・意欲	0	30	0	0	0	30
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	実習における日々の日誌について、出来事、それに対する考察を通して、知識、思考力、推論、想像する力についての理解を問う。				実習日誌を基に巡回指導にてスーパービジョンを実施する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	実習のまとめを通して、知識、思考力、推論、想像する力についての理解を問う。				実習報告書作成において添削指導を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>当教員：◎齊藤 晋治、古川 奨</p> <p>教員の実務経験 齊藤晋治：精神科ソーシャルワーカー、精神保健福祉士として15年の臨床経験。 古川 奨：ソーシャルワーカー、精神保健福祉士として9年の臨床経験。</p> <p>実践的授業の内容：教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、精神保健福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。</p>							